

令和5年度埼玉県社会福祉大会の実施結果について ともに支え合い明るい未来へ ～すべての人に健康と福祉を～

埼玉県の福祉の向上に功績のあった団体や個人の方々を表彰し、その功績をたたえました。

また、社会福祉の一層の増進を目指して、参加者一同の総意の下、「大会宣言」が採択されました。

1 日 時 令和5年11月2日（木）13：00～14：50

2 会 場 埼玉会館大ホール

3 概 要

(1) 表彰	埼玉県知事表彰	個人275名	71団体
	埼玉県社会福祉大会会長表彰	個人555名	158団体
	埼玉県共同募金会会長表彰	個人68名	48団体

(2) 知事挨拶（堀光副知事代読）

本県は、かつて経験したことがない人口減少・超少子高齢化社会の到来に直面しています。

大正9年の国勢調査開始以降、全国で唯一、人口が増加し続けた県とされていましたが、昨年4月に総務省が公表した2021年10月1日時点の県内の人口推計では、初めて人口が減少に転じました。

一方で、75歳以上の後期高齢者の人口は、日本で最も早いペースで増えていくと予想されています。

地域社会に目を向けてみると、単身高齢者世帯の増加や核家族化の進行、さらには長期に及ぶコロナ禍の影響などに伴い、地域のつながりが希薄化し、社会的孤立の問題が顕在化しています。

さらに、一つの世帯が、介護、障害、子育て、生活困窮などの様々な課題を複数抱えるとともに、それらが絡み合って複雑化するなど、対応に苦慮するケースも増加しています。

このような課題を乗り越え、誰もが安心して暮らすことができる地域社会を実現するためには、制度や分野ごとの縦割りや「支え手」「受け手」といった関係を超えて、住民や地域の多様な主体が、世代や分野を超えてつながり合うことが必要です。

ここにお集まりの皆様は、日頃から地域活動を通じて、率先して人とつながり、様々な工夫を重ねながら地域の福祉を支えておられます。大変心強く思います。

私は今後とも、あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らすことのできる社会である「日本一暮らしやすい埼玉」の実現を目指して取り組んでまいります。引き続き皆様のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

(3) 来賓祝辞【埼玉県議会議長 立石 様】

人口減少や急速な高齢化など、社会は大きな転換点を迎え、いわゆる8050問題など、地域社会が抱える課題も複雑化・多様化しております。

このような中、地域社会に根ざした皆様の活動は、住民同士をつなぐ共助の要として、地域で安心して暮らせる社会づくりに大変重要な役割を担っていただいていると考えています。

県議会では、これまで「埼玉県ケアラー支援条例」や「埼玉県ひきこもり支援に関する条例」を議員提案により制定するなど、社会状況の変化に即した支援が行われるよう取り組んでいます。

県民の皆様をしっかりと受け止め、誰一人取り残さず、共に生きていく共生社会を実現するため、ソーシャルインクルージョン 社会的包容力の充実を進めていきます。

引き続き、社会福祉事業に貢献されている皆様にもお力添えを賜りながら、県民誰もが元気に暮らせるよう、県議会としても全力を尽くしてまいります。

(4) 大会宣言

全国で唯一、人口増加を続けてきた本県においても、昨年、初めて人口減少に転じました。

一方で、いわゆる団塊の世代が全て75歳以上となる2025年にかけて、全国トップクラスのスピードで後期高齢者人口が増加すると見込まれています。今、まさに私たちは急速な少子化や超高齢化に伴う本格的な人口減少社会を迎える、時代の転換点に立っています。

世界に目を向けてみると、突然のロシアのウクライナ侵攻に端を発した政情不安の中で、資源不足、物価高が続いており、依然として私たちの暮らしを脅かしています。

さらに、約3年にも及んだコロナ禍は、社会経済活動だけでなく、人と人とのつながりをも制約し、生活困窮や社会的孤立、ヤングケアラー、虐待などの課題を一層浮き彫りにしました。

このような状況の中、地域社会に目を向けてみると、個人や世帯が抱える福祉課題は、介護、障害、子育て、貧困といった様々な要因が複雑に絡み合い、解決を困難にしています。

こうした課題は、到底、福祉関係者だけで解決できることではありません。住民、行政、企業など地域の多様な主体と本気で連携し、知恵を出し合い、人と人とのつながりを改めて構築していく必要があります。

私たちは、一丸となってこの難局に取り組み、SDGsの理念を活かし、「互いに支えあい、『誰一人取り残さない』地域を目指す埼玉づくり」の実現に向け、地域福祉を力強く推進することを決意し、ここに宣言します。

4 大会の様子

